



# やまがた ゆきみらい通信

～雪と生きる 雪を活かす～

第7号

発行所 やまがたゆきみらい推進機構  
〒995-0024 村山市榎岡笛田 4-5-1  
TEL:0237-47-8614 Fax :0237-55-5236  
E-mail ykitamurasomu@pref.yamagata.jp

## 雪プロジェクト真夏の雪体験バスツアーを開催

真夏に「雪体験」という何とも不思議なバスツアーが、八月七日に、新庄市と尾花沢市を巡るコースで行われた。本ツアーは、雪の利活用と研究の啓発を目的に開催したもので、親子連れを含む約四十人が参加した。



降雪体験に喜ぶ子ども達  
(雪氷防災研究センター)

見学地は、新庄市の(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所、県最上総合支庁産地研究室の雪むろ施設、尾花沢市役所の雪山による雪冷房システムのうち三か所。一番人気だったのが、氷点下十度の低温実験室での降雪体験で、みんな暑さを忘れて雪を楽しんでいた。

産地研究室の雪むろ施設では室温が二〜四度、湿度は百パーセント近くに保たれるため乾燥に強く、農作物などの貯蔵に適していることを学んだ。

尾花沢市役所の雪冷房システムでは、執務室の室温を二十〜三十度に保ち、湿度を約二十パーセント下げ、効果をもち、さらに二酸化炭素排出量も削減できるなど、人と環境にやさしい冷風を送り届けている。

「産地研究室雪むろ」と「雪冷房システム」



おいしい昼食

すいかの食べ放題

(番外編) 山形県立農業大学校にて

## 利雪部会

### 雪室施設の現地調査

七月十八日(金)に、利雪部会(部会長:横山孝男山形大学教授)のメンバーによる、雪室施設の現地調査を行った。



調査したのは、川西町フレンドリープラザに新たに完成した「雪冷房システム」、飯豊町めざみの里に完成した「いいで雪室研究所」、同中津川地区の「雪室低温貯蔵施設」の三か所。

川西町では新エネルギービジョンを策定する中で、最も高い評価を得た雪冷房システムを採用した。原油換算で年間約九千リットル、二酸化炭素排出量でも年間約十四トン、設備更新経費でも年間約百万円の削減効果があり、今後は環境教育への活用にも取り組んでいく予定だ。

## 「雪サロン」を開催

今年度初めてとなる「雪サロン」が七月二十三日(水)、村山総合支庁北庁舎で開催され、会員を中心に約四十人が参加した。

会員スピーチとして、株式会社ウソノハウスの樋口金一郎氏らが、自社で取り組んできた「雪国仕様住宅への取り組み」について講演したほか、村山総合支庁雪プロジェクト担当からは、昨年度行ったアンケート調査と融雪槽実証試験の結果についてそれぞれ発表を行った。

## 住宅リフォームフェア

### 9月にビッグウイングで

九月二十七日(土)と二十八日(日)の二日間、山形国際交流プラザ「ビッグウイング」で「第五回住宅リフォームフェア 2008 in 山形」が開催される。

山形県消融雪システム研究会の会員企業も出展を予定しており、最新の融雪機器を見て触ってじかに体験できる。

このフェアは両日とも午前十時から午後五時まで行われる。